

具体的な目標等について

◇ 「結核に関する特定感染症予防指針」の見直しにかかる検討について

「結核に関する特定感染症予防指針」

[平成19年厚生労働省告示第72号]
[最終改正:平成28年厚生労働省告示第399号]

主題		主な記載事項
前文		結核の現状、結核対策の方向性
第一	原因の究明	患者発生サーベイランスと病原体サーベイランス等について
第二	発生の予防及びまん延の防止	健康診断（定期及び接触者）、BCG接種
第三	医療の提供	医療提供体制の再構築、DOTSの普及・推進、その他体制
第四	研究開発の推進	ワクチン、抗菌剤等の研究開発
第五	国際的な連携	世界保健機関等との連携や政府開発援助
第六	人材の養成	研修
第七	普及啓発及び人権の尊重	国・地方公共団体・保健所・医師その他の医療関係者・国民それぞれの役割
第八	施設内（院内）感染の防止等	各施設における感染防止、小児結核、保健所機能強化
第九	具体的な目標等	成果目標、事業目標

「結核に関する特定感染症予防指針」の改正に向けた検討事項

検討事項	検討状況
結核病床・DOTS	- 結核病床のほか、感染症病床並びに一般病床及び精神病床を組み合わせることで必要な病床を確保できる体制とする方向性で了承 - 従来の日本版DOTS戦略を基本方針とした服薬支援を引き続き進めていく方向性で了承
サーベイランス	- 都道府県等は、全ての結核菌株を収集し、薬剤感受性検査結果を確実に把握できる体制を確保する方向性で了承 - 都道府県等は、分子疫学的サーベイランスを推進する方向性について了承
定期健康診断	- 高齢者に対しては地域の事情に応じた柔軟な対策を検討する方向性、高まん延国出身者に対しては地域の実情に応じて医療機関への有症状受診や定期健康診断の受診勧奨等に関する具体的な方針を示し、人権に配慮しつつ、早期発見の重要性を軸とした啓発を強化する方向性で了承 - 高まん延国出身者の取扱いの整理については、児童生徒等の健康診断における「結核高まん延国」の考え方と同様に、世界保健機関の考え方をを用いて整理する方向性で了承
BCG	- 市町村は、接種対象年齢における接種率の目標値を引き続き95%以上とする方向性で了承 - 国においては、引き続き予防接種に用いるBCGについて、円滑な供給が確保されるよう努める方向性で了承 - 結核低まん延国となったことを踏まえ、諸外国における結核の罹患率等とBCGの接種状況の評価に関するものなど、必要な研究を引き続き進めることとしてはどうか。 →今後「予防接種基本方針部会」において結核に関する個別予防接種推進指針改正案について審議予定
具体的な目標設定	今回部会において検討

今後の予定

次回、最終改正案を審議し令和8年度中に改正指針の告示を目指す。

2

◇ 具体的な目標等について

ひと、暮らし、みらいのために



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

具体的な目標の達成状況

- 成果目標について、
「罹患率」は、順調に低下し、**目標値（10.0以下）を達成している。**（令和7年：8.0）
- 事業目標について、
「DOTS実施率」は、**目標値（95%以上）の水準を達成している。**（令和5年：全結核 97.2%（うちLTBI96.3%））
「肺結核患者の治療失敗・脱落率」は、**目標値（5%以下）の水準を達成している。**（令和5年：1.8%）
「LTBI治療開始者のうち治療完了率」は、**目標値（85%以上）の水準を達成している。**（令和5年：86.3%）

※赤色の点線枠は、各指標が目標値を達成した箇所を示す。

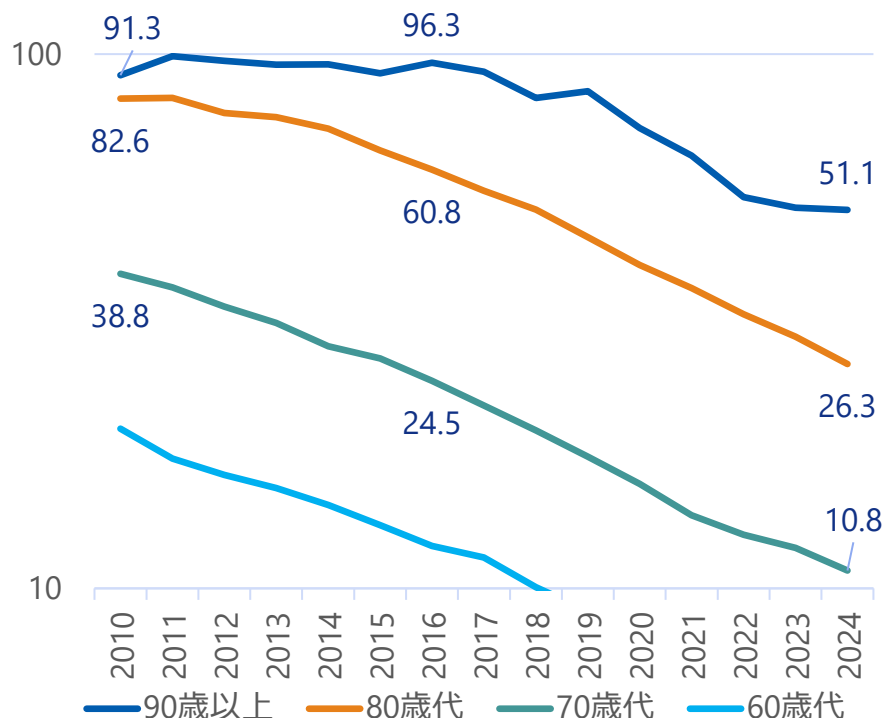
	指針における 目標項目 (登録年)	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
成果目標	人口10万人対罹患率 (対前年比)	11.5 (▲0.8%)	10.1 (▲1.4%)	9.2 (▲0.9%)	8.2 (▲1.0%)	8.1 (▲0.1%)	8.1 (±0.0%)	8.0 (▲0.1%)
事業目標	全結核患者及び潜在性結核感染症 の者に対する直接服薬確認治療率 (DOTS実施率)	-	-	-	-	97.2%	-	
	潜在性結核患者に対する直接服 薬確認治療率 (DOTS実施率)	-	-	-	-	96.3%	-	
	肺結核患者の治療失敗・脱落中断率	1.5%	1.9%	1.5%	2.0%	1.8%	1.8%	2.2%
	潜在性結核感染症治療開始者のうち、治療 を完了した割合	84.2%	84.5%	85.2%	85.0%	86.3%	85.8%	

(注) DOTS実施率は厚生労働省「結核患者に対するDOTS実施状況調査（自治体アンケート）」による 6

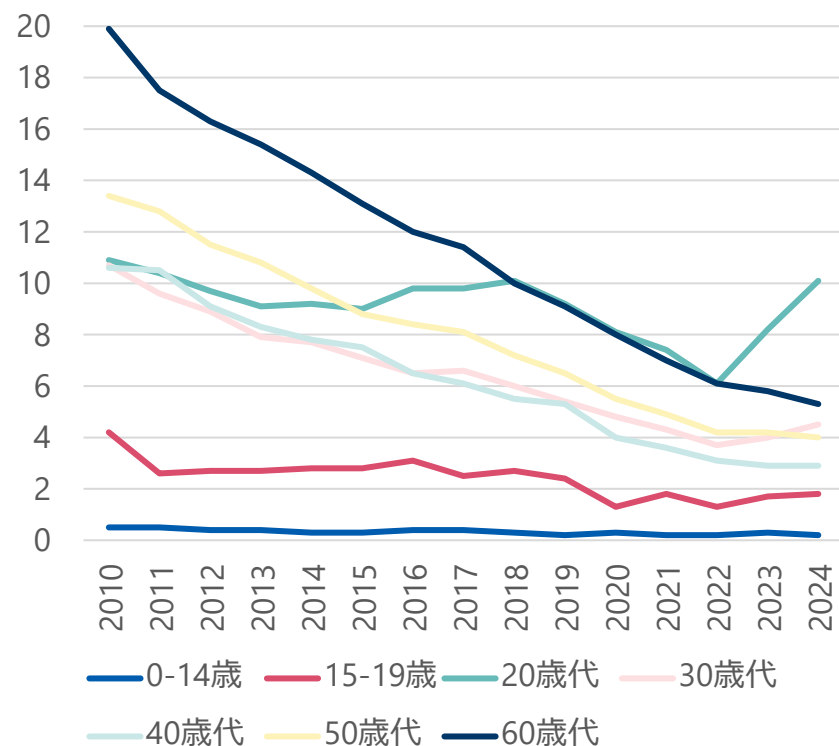
年代別結核罹患率の推移

- 高齢者の結核罹患率は低下傾向だが、70歳代以上の世代が新登録結核患者数の約60%¹⁾を占めており、結核罹患率に寄与する割合は依然として大きい。
- 高齢者の結核は過去の感染による再燃が大部分である^{2),3)}。現在の40～60歳代は、既感染者の割合が高齢者世代に比べて少ない背景から罹患率を大きく押し上げる集団とはなりにくいと考えられ、高齢の既感染世代の減少に伴い、今後、高齢世代の結核の罹患率は低下していくと予想される。
- 一方で、10～30歳代の罹患率は近年、上昇傾向である。

高齢者年代別罹患率の推移（2010-2024）¹⁾



60歳代以下の年代別罹患率の推移（2010-2024）¹⁾



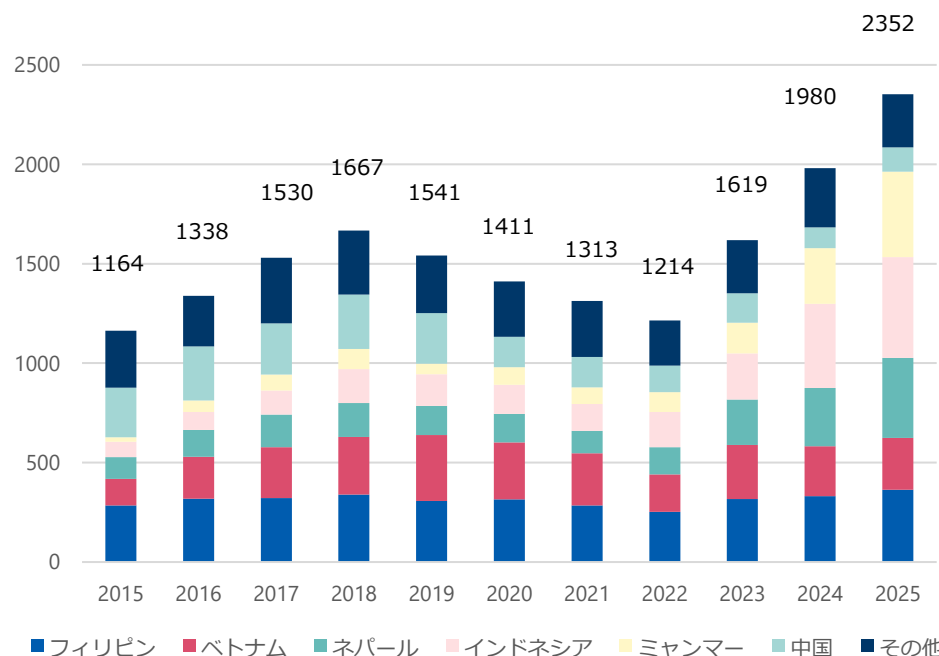
1) 結核の統計2025 (公益財団法人結核予防会)のデータを基に作成

2) 総説 高齢者の結核の現状と治療の実際、赤川志のぶ、日老医誌2010 ; 47 : 165-173, 3) Current epidemiological trend of tuberculosis in Japan, M Ohmori et al. Int J Tuberc Lung Dis. 2002 May; 6(5):415-23

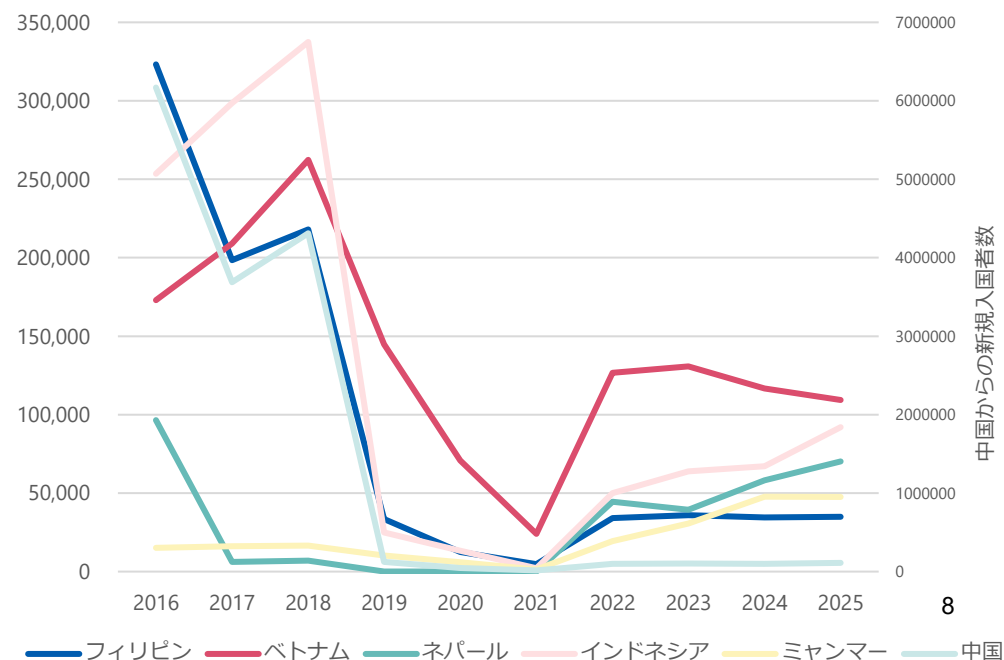
外国生まれ結核患者数（出生国別）と新規入国者数の推移

- 日本における外国生まれ新登録結核患者数は近年増加傾向で、特に若年層においては新規登録結核者数の大半を外国出生者が占める※。上位6か国（フィリピン、ベトナム、インドネシア、ネパール、ミャンマー、中国）における結核推定罹患率は、近年横ばい～上昇傾向で、世界的にみても高い。
- これら上位6か国の入国者数は近年、増加傾向であるが、令和6年度からフィリピン、ネパール、ベトナムを対象に入国前結核スクリーニング制度を開始している。

外国生まれ新登録結核患者数推移
(出生国別)



外国生まれ新登録結核患者数
上位6か国（JPETS対象国）からの新規入国者数の推移



※結核年報2025（公益財団法人 結核予防会 結核研究所 疫学情報センター）

具体的な目標等（成果目標）の改定案

現状・課題及び今後の目標案

- 2016年（平成28年）改訂版「結核に関する特定感染症予防指針」で設定された罹患率目標は2021年に達成し、その後も低まん延国の水準を維持している。今後、高齢者の結核患者数は減少が見込まれる一方、高まん延国からの新規入国者数の増加に伴う外国出生患者数の増加が見込まれており、患者構成の変化が全国罹患率の上昇要因となることが懸念されている。
- 以下「患者集団別の将来患者数及び全国罹患率の試算」で示すように、2015年～2019年の患者群別の増減傾向が今後も継続すると仮定した場合、患者数は減少するものの、全国罹患率は2030年に8.1、2035年に8.2となる。こうした状況を踏まえ、外国出生患者の増加による上昇圧力が見込まれる中でも、JPETS及び国内結核対策を総合的に推進し、人口10万人対罹患率8以下を維持することを2030年（令和12年）の罹患率目標としてはどうか。

患者集団別の将来患者数及び全国罹患率の試算

	患者数の年変化率（％） （2015年～2019年）	患者数予測（人） （2030年）	患者数予測（人） （2035年）
日本出生70歳以上	▲4.5％	5,127	4,068
外国出生	+7.3％	3,333	4,734
その他	▲10.5％	1,290	739
新登録患者総数	▲5.7％	9,750	9,541
全体の罹患率	—	8.1	8.2

試算方法

厚生労働省「結核登録者情報調査年報集計結果」をもとに、2015～2019年の「日本出生の70歳以上」「外国出生」「その他」の3の患者群別の増減傾向が今後も続くと仮定し、将来推計人口を用いて2030年および2035年の結核罹患率を試算した。
（予測人口は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」による。）

現在の目標値及び近年の罹患率

	指針における 目標項目	H32 目標値	R4	R5	R6	R7
成果目標	人口10万人対 罹患率	10 以下	8.2	8.1	8.1	8.0

改定案の考え方

外国出生患者の増加による上昇圧力が見込まれる中でも、人口10万人対罹患率8以下を維持することを今後の目標としてはどうか

今回の改定案

結核指針における 目標項目（案）	2030年（令和12年） 目標値（案）
人口10万人対罹患率	8 以下

具体的な目標等（事業目標）の改正案（その1）

現状・課題及び今後の目標案

- 健康診断、結核医療費の公費負担、予防接種、日本版DOTS戦略の推進等の総合的な対策や入国前結核スクリーニングを実施していくが、罹患率低下への寄与度は数値化されておらず精緻な罹患率の予測は困難である。このため、これらの対策を着実に推進し、結核低まん延国としての水準を維持する観点から、今後も同水準の目標としてはどうか。

【DOTS実施率、治療失敗・脱落率、治療完了割合 について】

現在の目標値及び近年の実施率等

	指針における 目標項目	H32 目標 値	R4	R5	R6	R7
事業 目標	全結核患者及び潜在性結核感染症の者に対する直接服薬確認治療率（DOTS実施率）	95% 以上	-	97.2 %	-	-
	潜在性結核患者に対する 直接服薬確認治療率 （DOTS実施率）	95% 以上	-	96.3 %	-	-
	肺結核患者の治療失敗・脱落率	5% 以下	2.0	1.8	-	-
	潜在性結核感染症治療開始者のうち、治療を完了した割合	85% 以上	85.0 %	86.3 %	-	-

改正案の考え方

各種対策を着実に推進しつつ、結核低まん延国としての水準を維持する観点から、今後も同水準の目標としてはどうか。

今回の改正案

結核指針における 目標項目（案）	2030年（令和12年） 目標値（案）
全結核患者及び潜在性結核感染症の者に対する直接服薬確認治療率（DOTS実施率）	95%以上
潜在性結核患者に対する 直接服薬確認治療率 （DOTS実施率）	95%以上
肺結核患者の治療失敗・脱落率	5%以下
潜在性結核感染症治療開始者のうち、治療を完了した割合	85%以上

（注）R6・R7は自治体アンケート調査未実施（次回実施はR12年を予定）

具体的な目標等（事業目標）の改正案（その2）

現状・課題及び今後の目標案

- 外国出生結核患者数が近年増加傾向にあるが、現時点で外国出生者の目標値が定まっていない。
- しかし、外国出生者に関する結核のデータを集計している自治体は限られているため、まず全国でどのような統計データが収集可能かを把握をする必要がある。
- 今後、自治体アンケート調査を通じて外国出生者に関する全国規模の統計値を収集・把握し、その実績をもとに、2030年度に次期（2035年）の適切な事業目標と目標値の設定を検討してはどうか。なお諸外国では外国出生患者の増加が結核発生動向に影響している事例も見られることから、その動向も参考とする。

【新規】外国出生患者の【DOTS実施率、治療失敗・脱落率、治療完了割合 について】

現在の目標値等

事業目標	指針における 目標項目	現在の 目標
	外国生まれの全結核患者及び潜在性結核感染症の者に対する直接服薬確認治療率（DOTS実施率）	なし
	潜在性結核患者に対する直接服薬確認治療率（DOTS実施率）	
	外国出生肺結核患者の治療失敗・脱落率	
	外国出生潜在性結核感染症治療開始者のうち、治療を完了した割合	
	外国出生接触者健診対象者のうち健診を受診した割合	

改正案の考え方

今後、自治体アンケート調査を通じて、外国出生者に関する全国規模の統計値を収集・把握し、その実績をもとに、2030年度（令和12年度）に次期2035年（令和17年）の適切な事業目標と目標値の設定を検討してはどうか。

今回の改正案

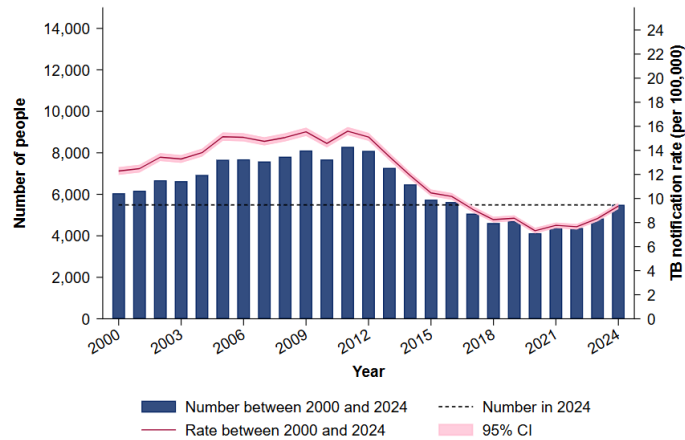
指針における 目標項目	2035年 （令和17年） 目標値
外国生まれの全結核患者及び潜在性結核感染症の者に対する直接服薬確認治療率（DOTS実施率）	今後実施する自治体アンケート調査を元に2030年（令和12年）に設定
潜在性結核患者に対する直接服薬確認治療率（DOTS実施率）	
外国出生肺結核患者の治療失敗・脱落率	
外国出生潜在性結核感染症治療開始者のうち、治療を完了した割合	
外国出生接触者健診対象者のうち健診を受診した割合	

(参考) 低まん延国における外国出生結核患者の増加と対策（英国の例）

英国では近年、外国出生結核患者の増加とともに結核患者数・罹患率が増加しており、入国前スクリーニングやLTBI対策等を推進している。

英国における結核患者数及び罹患率の推移（2000～2024年）

Figure 1. Figure 1. Number of TB notifications and TB notification rate per 100,000, England, 2000 to 2024



国外出生患者の割合及び罹患率の推移（2019～2024年）

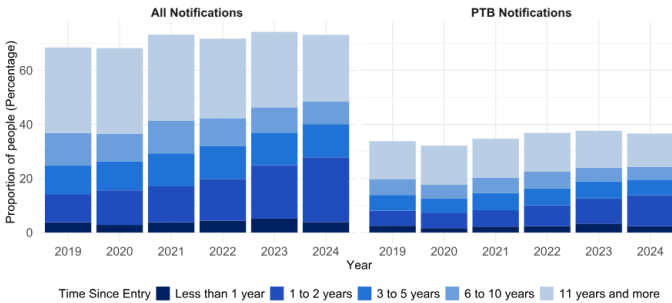
Table 2. Proportion of TB notifications in the non-UK born and TB notification rates by place of birth, England, 2019 to 2024

Year	Non-UK born (percentage)	Non-UK born rate per 100,000	Non-UK born lower CI	Non-UK born upper CI	UK born rate per 100,000	UK born lower CI	UK born upper CI
2016	73.8	49.0	47.5	50.5	3.1	2.9	3.3
2017	71.5	41.9	40.5	43.3	3.1	2.9	3.3
2018	72.0	38.5	37.2	39.8	2.7	2.6	2.9
2019	73.7	39.6	38.3	40.9	2.6	2.5	2.8
2020	73.2	34.2	33.0	35.4	2.3	2.2	2.4
2021	77.1	37.7	36.4	39.0	2.1	2.0	2.2
2022	79.0	37.8	36.6	39.1	1.9	1.8	2.0
2023	80.0	41.3	40.0	42.6	2.0	1.9	2.1
2024	81.9	46.9	45.5	48.3	2.1	2.0	2.2

国外出生患者の入国から届出までの経過年数別割合の推移

(2019～2024年)

Figure 5. Proportion of notifications (all sites of disease and pulmonary TB (PTB) only) in people born outside of the UK by time since entry to the UK, England 2020 to 2024



項目	現状
英国における罹患率	8.3 ➡ 9.4（2023年→2024年）
英国における結核患者数	4,831人 ➡ 5,490人（2023年→2024年、13.5%増）
国外出生者数	全患者の81.9%
国外出生者の罹患率	41.3 ➡ 46.9